

# 生活科における授業づくりのポイント

## 1 生活科における主眼について

生活科の主眼は、二つの観点から書きます。主に、一つは内容【知識及び技能の基礎】、二つは内容を捉えるための見方や考え方、活動【思考力、判断力、表現力等の基礎】を書きます。

### ○主眼の作り方の例

主眼1 ～は、・・・ということに気付くことができるようにする。

2 (対象)について、～する活動を通して、～について考えることができるようにする。

### 【第2学年「とび出せ！町のたんけんたい」における主眼1の例】

#### (1) 解説書を読んで内容を焦点化する

小学校学習指導要領解説生活科編 P. 34

内容(3) 地域と生活 ※下線は本時

自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かるとは、地域に出掛け、自分の身の回りには様々な場所があり様々な人たちが生活していること、そこには様々な仕事があり、それらの仕事に携わっている人たちがいること、それらの関係や、自分との関わりに気付くことである。

#### 【焦点化された主眼】

自分たちの身の回りにある場所、生活している様々な人たち、そこにある様々な仕事、それらの仕事に携わっている人たちの関係に気付くことができるようにする。

#### (2) 教科書を見て内容を具体化する

- ・ 自分たちの身の回り・・・附属久留米小学校の周り  
(移動距離や発達段階を考慮した活動可能な範囲)
- ・ 生活している様々な人たち、それらの仕事に携わっている人たち  
・・・商業、公共施設で働いている人たち
- ・ 様々な仕事があり・・・道具や機械を用いた仕事 (子供たちの興味関心から)

#### 【具体化された主眼】

附属久留米小学校の周りには、商業、公共施設で働いている人たちがおり、道具や機械を用いた仕事を行っているということに気付くことができるようにする。

#### (3) 事前調査を行い、内容を明確化する

○事前調査で対象を把握する。

- ・ 道具や機械を用いた仕事・・・特別な(その場所固有の)道具や機械を用いた仕事
- ※時間的な視点・・・現実的に対象となる商店や公共施設の営業時間が合うか。  
対象に精通している人と関わる活動が可能か。  
※内容的な視点・・・地域に対する思いや願いをもっている人か(地域への愛着)。

#### 【明確化された主眼】

附属久留米小学校の周りにある商業、公共施設で働いている人たちは、それぞれの場所において特別な道具や機械を使用しており、それらを用いて様々な仕事をしているということに気付くことができるようにする。

## 2 生活科における単元指導計画について

生活科の単元指導計画では、対象に対する思いや願いをもつ導入の段階、対象の存在に気付く展開①の段階、対象の特徴に気付く展開②の段階、対象の価値に気付く終末の段階といった四つの段階を大切にします。

段階	内容	具体例(第2学年生活科「とび出せ！町のたんけんたい」)
導入	対象と出会い、感覚的に働きかける活動や体験を行い、思いや願いをもつ。	実際に附属久留米小学校の周りを散策し、対象への興味関心を高め、町探検への思いや願いをもつ。
展開①	対象に試行的に働きかける活動や体験を行い、対象の存在に気付く。	地域へ出かけ、試行的に町探検を行い、様々な場所や人、仕事があり、働く人々がいることに気付く。
展開②	対象に意図的に働きかける活動や体験を行い、対象の特徴に気付く。	地域へ出かけ、対象を決めて意図的に町探検を行い、様々な場所や人、仕事、働く人々の関係に気付く。
終末	対象との関わりを振り返る活動や体験を行い、対象の価値に気付く。	※本単元では、「もっと知りたい たんけんたい」との接続のため対象の価値までは高まらず、地域への思いや願いをもつ。

### 3 生活科における一単位時間の学習過程について

生活科の学習過程では、思いや願いに沿った活動によって得られた気づきを、言葉や絵、動作によって表現したり交流したりしながら、気づきの質を高めていく学習過程を大切にします。

#### ○一単位時間の学習過程


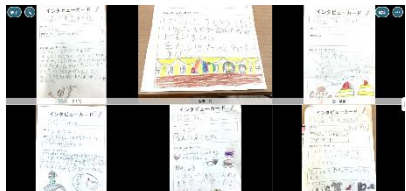
段階	学習活動と予想される反応	具体的な支援 ※ICT活用
導入	<p>1 前時までの思いや願い、活動を振り返り、本時のめあてについて話し合う。</p> <p>前の時間は、～（関わり方、気づき）することができた。今日は、（対象）と・・・したいな。</p> <p>（本時のめあて）【思いや願いに沿った活動】～しよう。</p>	<p>○思いや願いを膨らませ、本時のめあてをもつことができるように、本時の対象に関する写真や具体物を提示する。</p>
展開	<p>2 （活動）して、（対象）について話し合う。</p> <p>(1) 前時を振り返り、（学習の流れや表し方）について見通しをもつ。</p> <p>・～のように関わるとよさそうだ。 ・～に気をつけて表わすといいね。</p> <p>(2) 見通しを基に対象と関わり、気付いたことを表現する。</p> <p>対象への働きかけ ↔ 対象への気づきの表現</p> <p>(3) 気づきを分類したり関連付けたりしながら交流し、対象への気づきについて話し合う。</p> <p>・○○と□□は似ているところがあるね。 ・どの（気づき）も、～のところは同じだね。</p> <p>（本時のまとめ）～は・・・である。（することがことができた。）</p>	<p>○学習の流れや表し方についての見通しをもつことができるように、前時の活動を振り返る場を設定する。</p> <p>○対象への気づきを得ることができるように、保存した動画や写真を用いて表現する場を設定する。</p> <p>○自己の気づきの質を高めるために、自他の表現物（気づき）を分類、関連付けする場面を設定する。</p>
終末	<p>3 本時学習を振り返り、今後の対象への関わりについて話し合う。</p> <p>今日は、～（関わり方、気づき）することができた。次は、（対象）と・・・したいな。</p>	<p>○次時への思いや願いをもつことができるように、本時まで保存した気づきを表現した制作物を振り返る場を設定する。</p>

### 4 生活科における ICT の活用について

生活科では、「気づきを表現した制作物」、「対象」、「振り返り」を学習履歴として蓄積していきます。そして、これらの学習履歴を以下の三つの機能を用いて活用します。

- 保存機能…対象、気づき、振り返りを保存し、対象との関わりを振り返ることができるようにする。
- 共有機能…友達の気づきや表現方法を比較し、自分の表現に取り入れることができるようにする。
- 編集機能…プレゼンテーション等において、よりよい方法で表現することができるようにする。

#### ○ICT の活用の具体例

保存機能	共有機能	編集機能
<p>保存していた写真や動画、表現物を閲覧し、気づきの高まりを実感できるようにする。</p> 	<p>展開後段で自他の表現と比較し、自分の表現を付加・修正・強化することができるようにする。</p> 	<p>気づきを多様な方法で表現し、制作物を絵や言葉でよりよい表現に工夫できるようにする。</p> 